



清流小学校だより ～11月号～

令和4年11月1日

本校の強みと弱み ～全国学力学習状況調査から考えること～

教務主任 齊木 茂美

私は最近、「自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力、地域とつながる力は、自分から学びに向かっていく子供を育てる」という記事(※)を読みました。7月、全国学力学習状況調査の結果が発表されました。この調査は、国語、算数、理科に併せ、児童質問紙調査も行われます。6年生対象ですが、本校児童すべての傾向であると捉え、質問紙の結果から上記の4つの力について考えたいと思います。

本校では、「毎日同じ時刻に起きる・寝る」「毎日朝食を食べる」「自分でやると決めたことはやり遂げる」の項目でよい結果が見られました。同様に「自分にはよいところがある」「友達と協力するのは楽しい」の項目もよい結果でした。このような子供たちは、教科の正答率が高い傾向にあると言われています。家庭での基本的な生活習慣が身に付いていること、自他を大切に作る心の醸成に一番身近な家族や親しい人との温かい心の交流があることが感じられました。これは、本校の「強み」です。

さて、ここで、本校の弱みにもふれたいと思います。1つ目の課題は、「本や新聞を読む時間」です。読書を通して、登場人物に共感したり憧れたり自分との違いを感じたりすること、背景や情景を想像することは文章を読み取る力になるだけでなく、「自分と向き合う力」「自分を高める力」につながると考えます。学校では、朝読書の時間、週1～2回の学級で本の貸し出し、読み聞かせ等、本に親しむ機会をつくるよう工夫しています。まもなく校内読書月間も始まります。これらの活動を通して、本に親しむ習慣を付け、家庭での読書への意欲につなげたいと考えています。ご家族で同じ時間に一人読書をする、一緒に同じ本を読むなどの機会があるといいですね。



2つ目の課題は、「地域の人やものとの交流」です。魚津市には、名人達人と呼ばれる人、後世に残したい場所が数多くあります。自分の住む家の近くにも地域のよさがあると考え、校区探検やふるさと発見バス、地域の方々に学びながらの米作り等のふるさと学習を進めています。地域のよさにふれ、自分のモデルとしたい人に出会うことができるかもしれません。将来は地域で活躍したいと考える子供が増えるかもしれません。多くの経験や多くの人との出会いが、「他者とつながる力」「地域とつながる力」となり、なりたい自分を見付けることにつながっていくことを願っています。

※引用文献：内外教育7月1日号「教育長はこう考える」



2年生 ふるさと発見バス



6年生 ふるさと発見バス



5年生 米づくり体験 ～稲刈り～

～3年生の取組より～

総合的な学習の時間の取組を紹介します。

一つ目は、「清流のすてきを見つけよう」という学習です。子供たちは、ぶどうやりんご、かのこゆりといった地域の特産品や、東山円筒分水槽やしだれ桜、蛇石等の史跡や名所について、家庭・地域で多くの子供が詳しく調べ、それらの特産品や史跡、名所を自慢に思っています。ふるさとの素晴らしさに気付くことは、この学習の大切な目当てでもあります。子供たちは、調べたことをクイズ等にまとめて、2年生にうれしそうに紹介していました。

二つ目は、「火事はこわい！ぼくたち・わたしたちができること」という学習です。自分の地域の消火栓や防火水槽の場所を調べる活動や、火事を防ぐための工夫を家の人にアンケートを通じて教えてもらうことで、「自分たちの暮らしの中で、火事を防ぐために何かできることはないか」と考える態度が身に付いてきています。

学校で学ぶ際にも、お忙しい中りんご園を見学させていただいたり、消防団の方をお願いしてポンプ車を取材させていただいたり、家庭や地域の方の協力ができないことが多く、担任一同感謝しています。

どちらの学習にも、とても楽しそうに取り組んでいる子供たちの姿が印象的です。総合的な学習の時間での学びを通して、学んで得た知識と自分たちの生活を結び付けながら、子供たちの考えの幅がさらに広がることを期待しています。



10/23(日)「学習発表会・清流ミニフェス2022」が開催されました

学習発表会

歌やダンス、マット運動や英語劇等、どの学年も、これまでの練習の成果を発揮しました。堂々と表現する子供たちの姿が輝いていました。多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。



清流ミニフェス2022

新型コロナへの感染対策を取りながら開催しました。飲食物販売やゲームコーナー、余剰・遊休品販売等の催し物に、子供たちは楽しい半日を過ごしました。準備・計画してくださったPTA役員のみなさま、ありがとうございました。

